

頸椎疾患術後の頸部固定用具の考察

5階東病棟

○竹内 真弓・中内 千昭・安田 昌美
國貞 恭代・萩野 浩子・北村 郁子
森 明子・宮本 志保・植田真里子
小松真由三・茅原 泰子

I はじめに

近年、整形外科では手術方法の発展や装具の改良により、手術後の安静時間はかなり短縮されてきている。現在頸椎疾患術後では、10日～2週間の頸部安静を保持し、その後、頸椎装具を装着し、離床をすすめる方法をとっている。

当病棟では、従来、術後の頸部安静保持の為に、頸椎固定用砂嚢を4個使用してきた。しかし、この固定方法に対しては、患者側、看護婦側両者より、圧迫感がある、重い等の不満の声も多かった。今回、頸部固定用枕2種類を試作し、試用した結果を検討したので報告する。

II 研究期間

H4, 4, 1～H4, 8, 31

III 研究対象

研究期間中、手術目的で入院した頸椎疾患患者7名

IV 研究方法

1. 従来の頸椎固定用砂嚢についての問題点の抽出
2. 改善用具の考案と作成
期 間 H4, 4, 7～H4, 4, 30
3. 試作品の試用
期 間 H4, 5, 1～H4, 8, 31
4. 試作品試用患者および看護婦からの聞き取り調査

V 結 果

今までに頸椎固定用砂囊を使用した患者と看護婦の声をもとに、問題点を以下のように抽出した。

<患者側>

1. 重量感があり圧迫感がある。
2. 体液汚染などにより臭ってくる。
3. 通気性に乏しくむれやすい。
4. 耳に密着感，閉塞感があり，音が聞き取りにくい。
5. 重量感があり肩の動きが制限される為，肩がこる。
6. ベットアップ時，砂囊が下方にずれ肩にあたる事がある。

<看護婦側>

1. 1個3kgの砂囊を4個使用しているため，ケア一時移動させるのが重くて大変である。
2. 2個の砂囊を積み上げているために，上下のズレが生じる。
3. ベットアップ時，重さにより下方に移動し，肩を圧迫することがある。
4. 洗濯が非常に困難である。

以上の問題点より頸部固定用枕の条件として，

1. 頸部の固定ができ安楽である。
2. 通気性がある。
3. 洗濯が可能である。
4. 軽くて持ち運びが楽である。
5. 肌ざわりがよい。
6. 圧迫感がない。

の6項目に集約できると考えた。

そこで，条件を満たす素材として，ビーズ（枕用ビーズストロー型5×5mm）とSKパットの，2種類の固定用枕を考案し作成した。

さらに，ビーズ枕とSKパット枕を使用した患者および看護婦に，砂囊使用时出された問題点について聞き取り調査を行った。その結果，次のような意見が得られた。

	長 所	短 所
ビーズ	・ 圧迫感がない ・ 後頭部をくり抜いているので安定感	・ 重みがないことで固定が不十分でない か心配である

	<ul style="list-style-type: none"> がある ・肌ざわりが良い ・暑くない ・むれない ・体位交換が楽である (Ns) ・くずれない (Ns) ・洗濯ができる (Ns) 	
S K	<ul style="list-style-type: none"> ・圧迫感がない ・体位交換が楽である (Ns) ・くずれない (Ns) ・洗濯ができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・左右の高さが調節できない (Ns)

Ⅶ 考 察

頸部固定用枕の条件としてあげた6項目をもとに検討を行った。

1. 頸部の固定ができ安楽であるについて

頸椎疾患術後では頸部の安静を保つことが第1条件となる。そのためには固定用具が必要である。砂嚢、ビーズ枕、SK枕の3種類ともに、頸部安静保持の為の固定という面に着目すれば、大差ないと考える。

しかし、10日～2週間安静保持が余儀なくされるので、その間、いかに患者が安楽に過ごせるかということも大きな部分を占める。

砂嚢使用時、後頭部痛を訴える場合は馬蹄をいれて対処してきたが、ずれる・つぶれるなどの問題があった。

ビーズ枕およびSK枕では、後頭部にあたる部分を、そのカーブに合わせて凹状にしたことで(ビーズ枕では、ビーズの量を変えることで高さに変化が出る)安定感が得られ、条件は満たされたと考える。

2. 通気性について

砂嚢は粒子が小さい為空間が少なく、通気性に乏しい。その点、ビーズ・SKパッドでは、無数の連続した空室を形成しており通気性に優れている。これは患者の声からも明らかである。

3. 洗濯について

砂嚢は容易に洗濯できないため、体液汚染や消毒液がとれず清潔が充分保てない。しかし、ビーズ枕・SK枕は、洗濯が容易に出来る上に、滅菌も可能で、患者個々に清潔な物を使用できる。

4. 持ち運びに（移動）について

体位変換やケアなど平均して1日16回前後、1個3kgの砂嚢を除去したり、装着したりと、かなりの労力を要し、負担に感じてきた。それに比べ、ビーズ枕・SK枕は、1kg弱と軽く持ち運びは楽である。また、ビーズ枕・SK枕はマジックテープですぐ取り外しができるように考案したため、ケアが楽に行えるようになった。

5. 肌ざわりについて

3種類とも綿性の布でカバーしており、布そのものでは大差なく、内容物（素材・量）の違いが感触として伝わる事が考えられる。

感触に関する事は個人差があり、優劣つけがたい部分もある。しかし、ビーズ枕は、内容を増減させることで固さを調節することも可能で、患者個々のニーズに対応できるメリットがある。

6. 圧迫感について

砂嚢は、高さ12cmであり、顔の両側に壁が立っているような感じが強く、視野の制限もあった。ビーズ枕では、高さ7.5cmと、砂嚢に比べ4.5cmも低い。

また、ビーズ枕は多少の顔の動き（術後左右15°位の顔の動きは可能とされている）に合わせてビーズも少しは可動するので圧迫感は少ないと考えられる。

SKは、素材が柔らかく他の2つに比べ、圧迫感が一番なかったと言える。

しかし、一部の患者から、ずっしりと重みのある砂嚢の方が動かないので安心するという声もあった。

今後は、一概にこれがいいと決めるのではなく、個々の性格や希望に応じて、その患者にとって、より快適なものを考慮した上で使用してゆかなければならない。

Ⅶ おわりに

今回、私たちは、ビーズとSKパットによる頸部固定用枕を考案、試用し、従来の頸椎固定用砂嚢に比べ、患者には清潔でより安楽な、又、看護婦にとっては使用が簡便に出来るという結果を得た。ビーズ枕・SK枕の利点は多く、今後更に、安全・安楽を考慮し、わずかな点でも苦痛から解放できるように、看護用具の工夫を検討してゆきたい。

参 考 文 献

- 1) 佐藤正泰：骨・関節疾患患者に必要な基礎的知識，骨・関節疾患看護マニュアル，1989.
- 2) 加藤文雄：整形外科エキスパートナーシング，南江堂，1989.
- 3) 小田嶋悟郎：人体の構造，医学書院，1922.
- 4) 小田原凉子他：頸部固定用ビーズ枕の効用，安楽性に視点を置いて，第20回看護総合，1989.
- 5) 片川真由美他：頸椎手術後の頸部固定具の考案，第19回成人看護，1988.
- 6) 大高成子他：頸椎前方固定術後の頸部固定用具に一考察，第17回成人看護，1986.